

山形市制施行130周年記念



馬見ヶ崎川と 水道

Mamigasakigawa to Suido

山形市上下水道部

自然豊かで良質な水のある山形市 この素晴らしい財産を未来へ



市民の皆さまには、日頃より、市政の運営はもとより、山形市の水道事業につきましてもご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。

令和元年は、山形市が市制施行130周年を迎えた年であり、中核市に移行した年でもあります。

また、大正12年5月に山形市の母なる川馬見ヶ崎川の伏流水を水源として通水を開始して、令和4年には100年という節目の年を迎えようとしております。

今回、山形市水道の起源でもある馬見ヶ崎川と、地域の皆さまとのこれまでの関わりについて改めて認識するために、「馬見ヶ崎川と水道」という小冊子にまとめて発刊することにいたしました。

山形市では、今後とも母なる川馬見ヶ崎川の恵みを後世に引き継ぐため、市民の命の水の水源である馬見ヶ崎川、特に上流域の水質保全や環境保全に、市民の皆さま、地域の皆さまと一緒に取り組んでまいりますので、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月 山形市長 佐藤 孝弘

山形市の水道の あゆみ

創設期

【工期:大正7年~大正12年施行】

水道管延長:約48km

- 馬見ヶ崎川の伏流水を水源とした松原浄水場を建設し、大正12年5月4日に通水式を行い給水開始した。
- 香澄町、旅籠町、小姓町、小白川町など、主に駅より東側の中心部を給水区域とした。

第一次拡張事業

【工期:昭和28年~昭和34年】

水道管延長:約250km

- 昭和28年から昭和34年にかけて建設することになった県営不動沢砂防ダムを貯水のために嵩上げし、ダムの水を導水管により松原浄水場へ導水した。
- 昭和32年、現在の松原浄水場の場所に緩速ろ過池を設置した。
- 鈴川地区が給水区域となる。

第二次拡張事業

【工期:昭和38年~昭和45年】

水道管延長:約555km

- 昭和41年度から昭和45年度にかけて県営蔵王ダムを建設し、ダム用水を水源として導水管で松原浄水場、東沢浄水場へ導水した。
- 東沢地区、滝山地区が給水区域となる。

第三次拡張事業

【工期:昭和44年~昭和51年】

水道管延長:約882km

- 昭和47年から最上川表流水を見崎浄水場に導水し、給水を開始した。
- 高瀬地区が給水区域となる。

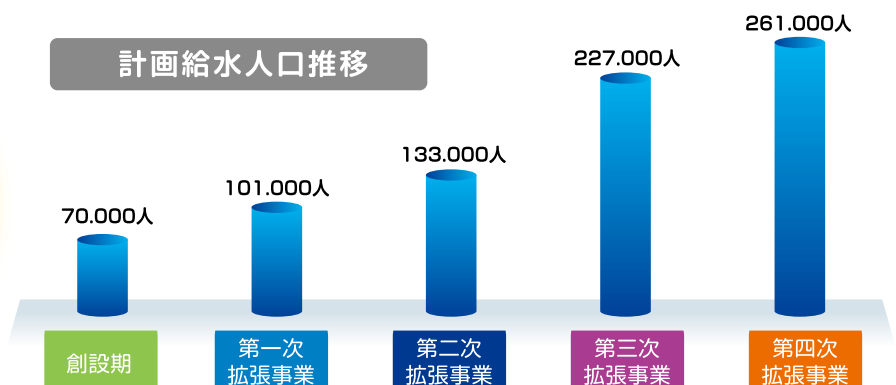
第四次拡張事業

【工期:昭和55年~昭和63年】

水道管延長:約1074km

- 寒河江ダムを水源とする山形県村山広域水道から受水し、平成3年から本格的に給水を開始した。
- 蔵王山田、小松原、湯田、漆房、新山が給水区域となる。

現在に至る



山形市の主な 水道施設



**最上川中部水道企業団
浄水場(中山町)**
●昭和42年から大曾根・
村木沢地区へ給水

寒河江ダム
**県営村山広域水道
西川浄水場**
●寒河江ダム貯留水
昭和59年完成

見崎浄水場

**上下水道施設
管理センター**

南山形配水場

南部浄水場
●又治窯沢川表流水
昭和42年3月完成

南山形配水場
山形市大字松原1200-1
昭和59年3月完成
●市内南・西部の
約24%に給水



水源: 村山広域水道から受水

見崎浄水場

山形市見崎川原52

昭和47年7月完成

●市内北・西部の約30%に給水



高度浄水施設

平成9年3月完成

●活性炭処理でさらにおいしくしています。



水源:最上川表流水

紅葉川

面白山高原駅

仙山トンネル

至仙台

山寺浄水場

●仙山トンネル内の湧水
昭和48年3月完成

上下水道施設 管理センター

山形市南石関27

昭和58年3月完成



松原浄水場

山形県庁

千歳山

東沢浄水場

●蔵王ダム貯留水
昭和44年3月完成

蔵王掘田浄水場

●蔵王山系山ノ神堰の湧水
平成14年3月完成

水源かん養林

蔵王温泉浄水場

●カリージャ川・一度川表流水
および蔵王深井戸地下水等
昭和37年3月完成

松原浄水場

山形市小白川町5-29-71

平成18年3月完成

●市内東・南部の約42%に給水



小水力発電施設

平成26年9月完成

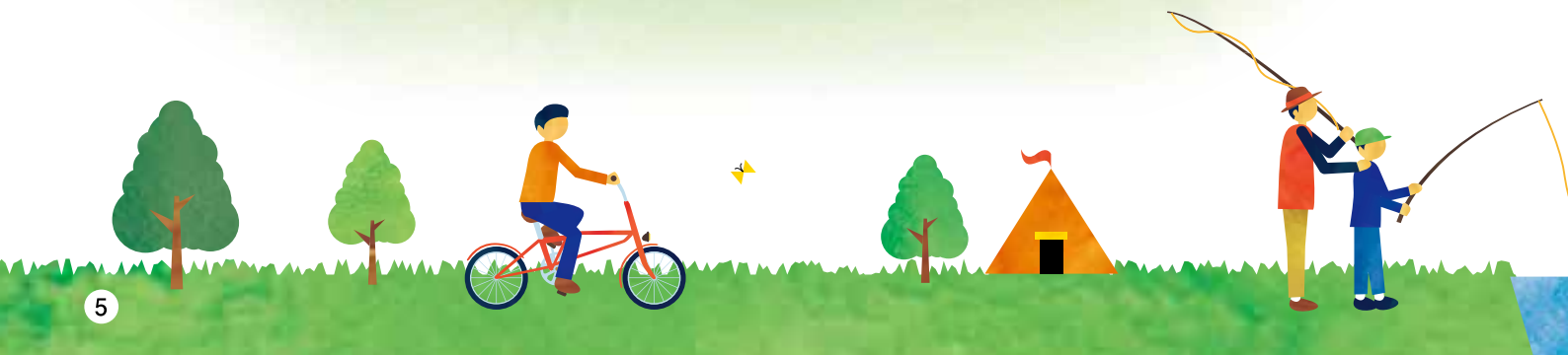
●場内電力自給率100%

●災害時でも水を届ける事が可能な施設



水源:蔵王ダム・不動沢川・伏流水

馬見ヶ崎川と 水道の歴史



1

山形市水道のはじまり 大正12年

山形市の水道は、大正7年から大正12年にかけて、馬見ヶ崎川の伏流水を水源とする松原浄水場（現 松原配水場）を建設し、給水を開始したのがはじまりです。



大正12年 松原浄水場（現在の松原配水場）



現在も配水場として使用しています。



昭和41年から平成17年の間の松原浄水場



平成18年に完成した現在の松原浄水場

2

不動沢ダムの完成 昭和34年



平成6年に撮影した不動沢ダムの全景です。

大正12年の創業以降、産業・文化の発展、さらに隣接地域の合併による人口の増加により水需要が増加しました。このことに対応するため、昭和28年から昭和34年にかけて、県が実施する不動沢の砂防ダム工事に合わせてダムの高さをかさ上げし、貯水された水を松原浄水場へ導水しました。

れた水を松原浄水場へ導水しました。



不動沢取水場

3

水源涵養林^{かん}を取得 昭和32年

水源涵養林は水源地の周辺に位置し、保水や洪水緩和、また、自然の自浄作用による水質浄化など良質な水源を将来にわたり確保するため、昭和32年に約40ha、昭和59年に約33haを取得し、現在、約73haの山林を所有しております。標高は、一番低いところで約640m、一番高いところで約1040mです。

涵養林購入当時の造林時の写真です。



平成5年
水道通水70周年記念で、
ブナの植樹を行いました。

約25年後には、
こんな姿に
なっています。



ちょっと一言 column



水源涵養林管守人
遠藤 秀也さん

水源涵養林は、戦後木材として利用するため成長が早いカラマツやスギなどの針葉樹が多く植えられていましたが、現在では、より保水力が高いブナ、ケヤキ、イタヤカエデなどの落葉広葉樹に転換しています。そのような落葉広葉樹や周りの山に生える木々がもたらす緑豊かな春の新緑、赤や黄色など色とりどりの秋の紅葉は絶景です。市民の皆さんにも、ぜひ、水源涵養林内へ足を運んでいただき見てもらいたいと思います。また、登山で不動沢林道の行き止まりからドッコ沼までは150分、水源涵養林から龍山までは100分で行けます。一度登ってみませんか!

4

蔵王ダムの完成 昭和45年

昭和38年には、将来予想される人口の増加と下水道の普及による使用水量の増加に対応するため、県営蔵王ダムの建設にあわせて、ダム用水を水源として安定性のある水源の確保を行いました。昭和45年に完成した蔵王ダムは、上水道用水のほか、河川環境の保全、洪水調整、かんがい用水、発電用水などの目的をもった多目的ダムであり、上水道用水として蔵王ダムから導水管により松原浄水場及び東沢浄水場に導水しています。



ダムから浄水場へつながる導水管のようすです。
※現在も使用しており、耐震補強工事をしています。



山形県山形統合ダム管理課 写真提供

蔵王ダムの概要

- 標高: 約650m
- 高さ: 66m
- 長さ: 273.8m
- 体積: 276,000m³
- 総貯水容量: 7,300,000m³

蔵王ダムの見学コース

約60分
程度

普段見ることのできないダム内部の様子などを見学できます。見学時には、ダムカードを配布しています。



◆ 見学可能時期 / 4月下旬～11月

問い合わせ先

山形県山形統合ダム管理課
TEL:023-631-3526

5

東沢浄水場の完成 昭和43年

東沢浄水場は、上宝沢、下宝沢、防原、釈迦堂、妙見寺、滑川に給水するため、昭和43年3月に完成しました。蔵王ダムの水を導水しています。



馬見ヶ崎川の 恵み



1 農業用水(五堰^{せき})



馬見ヶ崎川・
五堰水利調整協議会
会長
名佐原 市則^{さん}

現在は昔に比べ人口も増え、生活用水等で多くの水を使用するようになりました。昔は堰にあふれるほど流れていた水も今は少なくなっています。時代とともに田畑も少なくなってきたものの、水は生きていくうえで必要なものです。これまで生活を支えてきた水を今後も絶やさぬよう守っていきたいです。



五堰の流れているようす

2 河川敷

馬見ヶ崎河川敷は、春は花見、夏は水遊び、秋は風物詩となっている芋煮会やスポーツができるグラウンド場など、市民の憩いの場所として利用されています。



3 東沢小学校

東沢小学校では、昭和60年4月25日に、緑の少年団を結成しました。4年生が「環境学習」として、馬見ヶ崎川の自然や水質を調べたり、ホタルの里保存会の協力によりホタルの学習や親子観察会を続けています。7月には、ホタルの里を紹介するウェルカムポスターを学校周辺に掲示するなど活動し、東沢地区の清らかな水が育む自然環境を学んでいます。



ホタルの里のウェルカムポスター



7月 ホタルの学習会



馬見ヶ崎川の
水質検査

「市制130周年記念事業 山形市上下水道部 植樹祭」に合わせ発刊
山形市上下水道部総務課



令和元年10月発行